

新しい令和の時代へ

2019 関東支部 同窓の集い ご案内

風薫る爽やかな季節となりました。皆様にはいかにお過ごしでしょうか。日頃は村上高校同窓会関東支部の活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年天皇陛下御譲位に伴い元号も「令和」に改められました。昭和・平成と生きてきた我々にとって、令和時代に向かって、一人ひとりがご健康でご活躍することを願っております。

三月一日に母校の第七一回卒業式が挙行され、二〇〇名の卒業生がそれぞれの道に向かって巣立って行きました。私も来賓として式に参列して、夢多き若き後輩が社会での荒波に負けず元気で健やかに育ってゆくことを心より願いました。

さて、同窓会関東支部におきまして年一度、同窓の仲間が集まり親しく交流できる総会・懇親会を六月に開催します。今回は三二回生が当番幹事として役員、その他幹事と一緒に会を盛り立てるように準備を行っております。今回は今までの趣向を変えて、参加した皆様がじっくりとお話ができる環境を整えて提供したいと思っております。皆様のご来場を心よりお待ちしておりますと共に、お友達やお知り合いの方々に参加お誘いのお声掛けをお願い致します。

村上高校同窓会関東支部 会長 山本宏平（17回）



題字 宮 絢子

2019. 5. 10 第30号

発行人 山本 宏平
編集 木村 春夫
事務局 櫻井 繁雄
神奈川県川崎市多摩区
宿河原1-22-35-308
☎044(933)1033
ホームページ <http://www.murakou.com/~kanto/index.htm>



〇とき

令和元年六月十五日(土)

一時より受付開始・二時開会

〇ところ

主婦会館プラザエフ

千代田区麹町六番町一五

☎〇三三三三六五八一一

〇アクセス

・JR中央線・総武線四谷駅

下車 麹町口 徒歩二分

・地下鉄丸の内線・南北線四谷駅

〇会費

・男女とも

・平成二六年〜二九年度卒三千元

・新卒者(三〇年度卒) 無料

※会場準備の都合上、五月末日(金)までに出欠のご返事をお願いいたします。

ベスト・オブ・ベスト

木村春夫(23回)

前号(昨年)より編集を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。



慣れない編集作業に最初は不安だらけでした。一年目は締め切りまでに間に合うかどうか確信が持てませんでした。前任の山下さんに比べると、私は経験、技量、知識等々すべての面で力不足です。

いま、私のとるべき道は乏しいながらも自分ができることにベスト(オブ・ベスト)を尽くすしかないと思ひいたしました。

しかしながら編集を引き受けたことに後悔は全くありません。原稿依頼などの編集作業を進める中で、私は各界で活躍なさっている多くの魅力あふれる村高同窓生の方と巡り合うことができました。

当番幹事として同窓会活動に参加して以降八年、私のお会いした同窓生の皆さんは例外なく明るく元気で生き生きとしていらっしやいます。

心優しい村上大好き人間との邂逅は大変な編集作業の苦勞を忘れさせてくれます。

歩き始めた広報紙木村「村高」をより良いものにしていくため皆様のご協力が必要です。よろしくお願ひいたします。(牛久市在住)

ホッとする瞬間

村上への想いを語ろう

当番幹事代表

坂井昌夫 (31回)

私は三一回生、昭和五四年三月卒業の坂井昌夫と申します。どうぞよろしくお願ひします。



昨年は三一回生が幹事学年ということでしたが、参加人数が非常に少なく、諸先輩の方々からのお力添えを頂き、無事開催することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さてその「同窓の集い」では諸先輩の方々のパワーに圧倒されましたが、野球部の先輩からは貴重なお話を聞けて大変有意義な時間を過ごさせていただきました。また卒業以来約四〇年ぶりに会う人もいて、二次会でも故郷村上を語り合うことができました。この機会にぜひ同窓の集いに参加して、ホッとする瞬間を感じて見て下さい。

時の経つのは早いもので、今年三月で高校卒業から四〇年が経過しました。その当時は振り返ると、まだ新幹線は開業しておらず、村上から東京に来るには「特急いなほ号」で上野駅まで約五時間程で上野駅まで約五時間程で掛かっていましたが、昭和五七年に大宮まで新幹線が開業し、昭和六〇年の上野駅開業を経て、



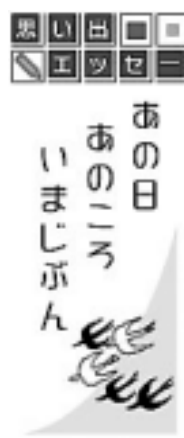
平成三年には東京駅まで開通し、東京新潟間は最短で一時間三七分、東京村上間でも三時間を切り、二時間三〇分程度の所要時間に短縮されました。便利になったなと感じると共に、昨年の新潟駅高架化工事により新幹線といなほ号が同一ホームで乗換え可能となり、村上がより一層近くなったと実感しております。私が東日本旅客鉄道株式会社に勤務しているからではありませんが、ぜひ新幹線といなほ号を乗り継いで故郷村上に足を運んでみませんか？懐かしい記憶や新しい発見が出来るかもしれません。

会計報告

29年度 収入の部	29年度 支出の部
総会費・お祝い金	総会費 926,653円
133名 942,000円	印刷費 173,128円
本部助成金 50,000円	通信費 228,378円
維持会費	維持会費払込手数料 32,140円
380名 998,000円	旅費及び慶弔費 110,000円
寄付金 20,000円	会議費 182,477円
雑収入 6円	運営費 68,805円
広告代 20,000円	次年度への繰越金 1,155,650円
前年度より繰越金 847,225円	合計 2,877,231円
合計 2,877,231円	

29年度 収入の部
総会費・お祝い金
133名 942,000円
本部助成金 50,000円
維持会費
380名 998,000円
寄付金 20,000円
雑収入 6円
広告代 20,000円
前年度より繰越金 847,225円
合計 2,877,231円

最後になりましたが、私は野球部出身であり、夏の地方予選には新潟の野球場まで足を運び応援することがありますが、なかなか勝ち星に恵まれません。いつの日か甲子園の聖地で同窓生と共に「豊栄昇る」の校歌を歌う日を夢見て、頑張ってまいります。六月にまたお会いできることを楽しみにしています。(大田区在住)



日本のうたでほっこりと

和泉聡子 (40回)



四〇回生の和泉(旧姓樋木)聡子と申します。昭和最後の三月に村高を卒業して以来歌の道を歩み「和泉聡子」という芸名で藤原歌劇団、日本歌曲振興波の会に所属しております。

村高を卒業してお茶の水女子大及び同大学院演奏学修了、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了、さらにロンドンで四年間研鑽を積み、思ったことは「日本人として日本歌曲を究めたい」ということでした。帰国後はオペラと同じくらい日本歌曲の勉強やコンサートを積極的に行ってきました。日本歌曲はオペラに劣る、と思われ

た時代があります。しかし、比べるものではない、日本歌曲の魅力がたくさんあります。まず、その詩が文学です。三木露風、北原白秋、中原中也、佐藤春夫、金子みすゞ、深尾須磨子、谷川俊太郎、やなせたかし、茨木のり子など名を挙げつくすことが出来ないほどの名作が歌になっています。

そして歌は、人生の思い出と共にあり、忘れることはありません。歌を聴くだけでその時代に帰ることが出来ます。老人ホームやホスピスで童謡唱歌や昔の歌謡曲を歌うと、皆さんのお顔が一瞬で輝き、お若くなります。

昔の歌ばかりでなく新しい日本のうたもどんどん作られています。昨年からは、そんな新旧の日本のうたを集めて「日本のうたカフェ」というコンサートを始めました。蕨駅近くの小さなカフェで楽しくお喋りしながら様々な日本歌曲をご紹介します。同窓会の先輩、丹田様が宣伝してくださり、田所様と安富様が聴きに来てくださいました。六月九日には第四回、歌とピアノと薩摩琵琶でお送りする予定です。

五月には日本作曲家協議会主催「第二三回JFCアンデパンダン展」と日本オペラ協会主催「伊藤康英の夕べ」という二つの大きいコンサートに出演します。これからも日本歌曲の勉強、研鑽を積みながら、様々な日本のうたで社会に貢献していきたいと思っております。昨年はむらかみ宵の竹灯籠祭りで

も歌わせて
いただきま
した。村高
の同窓会の
皆様とも日
本のうたを
通してお目
にかかれる
日がありま
すよう、楽
しみにして
おります。
(川口市在
住)



竹灯籠祭り演奏会(安善寺)

ロダンを支えた

稲垣吉蔵!!

松澤 正(15回)

皆さんはこのことをご存知ですか？
二年前、この村上高校同窓会関東支部
で安富成良(19回)さんからフランス
の世界的彫刻家「オーギュスト・ロダ
ン」(一八四〇〜一九一七)を裏で支え
たのは村上出身の「稲垣吉蔵」氏(一
八七六〜一九五一)ということを始め
て伺い大きな驚きと衝撃を受けまし
た。

しかも当時、稲垣吉蔵と交流してい
たのがフランス留学中の成良さんの祖
父安富成中さんということでした。

成良さんのお父さんで私の恩師の安
富良英先生が晩年書かれた手記の中に

かなり詳しく書かれていることも分か
りました。私が村上高校出身の方々に
稲垣吉蔵のことを聞いても誰一人知り
ませんでした。

何故でしょうか？

昨年帰省した時
に村上市郷土資料
館を訪れたのです
が、「稲垣吉蔵」
の名前・資料等を
見つけることがで
きませんでした。

その後、資料館に問い合わせ、展示
はしていないものの、多くの資料が収
集されていることが分かり、その一部
を頂くことができました。

稲垣吉蔵は、小国町の宮大工の二男
として激動の明治九年に生まれ、苦学
して東京美術学校(現東京芸大)を卒
業、フランス留学を命ぜられ、そこで
ロダンに認められました。

「稲垣は単にロダンの技術上の相
手であっただけでなく、翁の晩年には
秘書といふべきもので、ロダン翁は何
事も同氏の手を通さなければ喜ばな
かつたそうです・・・」と良英先生の手
記にもあります。

稲垣はフランス人女性と結婚し、一
男一女をもうけ昭和二六年に七六歳で
亡くなりました。平成四年に娘のシモ
ーナさんが安富良英先生を頼って来
日、村上に来られた時はテレビ・新聞
でも大きく報道されました。(シモ
ーナさんは翌年死亡)

シモーナさんによると「ロダンが生



稲垣吉蔵氏

きている間、父はかなりの彫刻をやっ
ていたはずだが、サインは全部ロダ
ンであり、その作品のどの部分に父が関
わったかということを確認することは
できない。」ということも稲垣の作品と
してはほとんど残っていないよう
です。

しかし、ロダンが稲垣に宛てた手紙
や稲垣が使用した道具等はシモーナ
さんの遺族が管理しているそうです。

巨匠ロダンの作品はフランスのロダ
ン美術館は当然ですが、世界の主な美
術館だけでなく、日本の国立西洋美術
館、静岡県立美術館「ロダン館」、愛知
県美術館、礒山美術館、彫刻の森美術
館、大原美術館、長島美術館などにも
あり、枚挙にいとまがありません。

「稲垣吉蔵」の偉大な功績は村上
にとつて、いや日本にとつても大きな
文化的・歴史的遺産であり、風化させ
ることなく、後世に伝えていくべきで
はないかと思えます。

そのためには、まず村上市民、特に
これから世界に羽ばたくであろう小
中・高の生徒の皆さんに稲垣吉蔵のこ
とを知ってもらうことが最も重要と思
います。

その方法は多々あると思えますが、
まず村上市郷土資料館に「ロダンの作
品は無理としても、せめて同館に『オ
ーギュスト・ロダンと稲垣吉蔵のコー
ナー』を設けて頂き、ロダンの『考え
る人』のレプリカと資料の展示とさら
なる収集をして頂きたい。」とお願い
しました。

村上市は全国的に見ても観光資源が
数多くありますが、「ロダンと稲垣吉
蔵の関係」は特に
外国人観光客を村
上市に呼び込む大
きな観光資源にな
ると確信していま
す。
(所沢市在住)



村上の偉人

世界一周の船旅

ピースボートに乗って

中村則行(23回)

三〇数年前、一〇〇日間世界一周九
五万円のポストターを見てからいつか必
ず行こうと心に決めて
いたピースボート。二
〇一七年四月一二日
七月二五日、一〇五日
間の船旅に行くことができた。二〇一
六年末の精密検査でちょっとした病気
が見つかり、健康に動ける今のうちに
と休職して急遽申し込んだのだ。



ピースボートは豪華客船とは違い、
プールやジャグジーなど設備の種類は
それなりに整っているが、パナマ船籍
の四〇年以上の老朽船で、いつもどこ
か修理しながら航海しているおんぼろ
船。豪華なプロのショーではなく、素
人の自主企画を含めたイベントが多
い。自主企画が目的で乗船しているリ
ピーターの乗客も多い。

約一〇〇〇人の乗客と四〇〇人のス

スタッフに乗
船。

スタッフは殆ど中南米やインドネシア等の外国人で、グローバル言語はスペイン語。乗客は若者が二割程度でシニアが六割以上。日本人が七割程度で中国、台湾、韓国の人も多い。寄港地からシ



セーヌ川にて



ピースボート

で亡くなり三階の冷凍室で帰国した人も一名いる。船内放送は日本語、スペイン語、英語、中国語、韓国語でアナウンスされるので始まると長くてうざい。ベネズエラオーケストラの乗船もあり、船内ではスペイン語が飛び交っていた。人によって過

だ。強制は無
いので丸一日
のんびり過ご
す人、憑かれ
たようにいろ
んなイベント
に参加しまく
っている人の
二つに分かれ
る。私は後者。毎日忙しいスケジュー
ルに悩まされた。豪華客船の旅ではな
い。乗る船を間違えたと途中で下船し
たお金持ちの婦人もいる。
どこが一番良かったかと聞かれるが
難しい。ヨーロッパとラテンは違う良
さがあり、とにかく行かないとわから
ない。オプションナルツアーは高価なの
で、寄港地の半分位は路線バスや電車
を利用して単独行動した。オフライン
の地図アプリ maps.me のおかげ「地
球の歩き方」と共に必須である。ヨー
ロッパは安全だがロシアや中南米では
ツアー以外単独行動を禁止している寄
港地もある。
ポランティアの無料乗船もあり若い
人にこそ是非乗ってほしいと思う。帰
国して私の三人の子供に一〇〇万円や
るから「誰か行ってこい。早いもの勝
ちだ」と言ったが、いまだに誰も手を
挙げてこない。
今回の航海では幸運にも穏やかな海
と好天に恵まれた。波の全く無い、吸
い込まれるようなマリンブルーの海と
真っ白な航跡。最上階のデッキにて三
六〇度穏やかな海と潮風に包まれて、



ベネオケのレッスン

ああ地球ってこんなにも優しかったの
だと感動した。
年に三回あるので、次回は一二月
三月の南半球航路、最後は終活で八月
十一月のオーロラ鑑賞航路に乗船し
三階の冷凍室で帰国するのが今の私の
夢である。
(杉並区在住)

第八回歴史散策

「飯能古刹巡りの旅」

歴史散策担当

美濃忠三(22回)



平成三〇年一〇月二一日(日)埼玉
県飯能市を散策しました。参加者は一
〇名。西武池袋線飯能駅に集合し出発
です。飯能市は、かつ
て材木と養蚕、織物産
業で栄えた町で、協同
組合事務所による建設
的な運営により武蔵野鉄道(現西武鉄
道)を呼び込むことにも成功していま
す。最初に訪れた「店蔵 絹甚」は絹
関連商品を扱う商家で、当時流行の土
蔵造りを採り入れた建物で現在は、町
の象徴として残すため、民間の運営委
員会によって管理されております。常
駐のガイドの方が説明して下さい、驚
いたことに奥様が村上高校の卒業生で
あるとのこと、不思議なご縁を感じま
した。
次に天覧山の麓の能仁寺へ向かう途
中には神社仏閣が多く、観音寺では境
内の手作り市を楽しむことができました

た。
そして能
仁寺へ。開
創は室町中
期、芝増上
寺からの石
燈籠が一二
基もあり、
格式が伺え
る奥武蔵の
名刹である。庭園は名勝天覧山をも取
り込んだ見事な造形、日本名園百選に
も入っています。



店蔵絹甚

その後、飯能郷土館を経由し、飯能
河原へ。清らかな入間川の流れに沿っ
て遊歩道が続いており、河原では多く
の人が釣り、バーベキュー、水遊びを
楽しんでいました。
飯能河原溪谷の断崖絶壁に建つレス
トラン「カールヴァーン」で昼食。そ
こは木々と川に囲まれた立地で、文明
開化期の洋館とアラビア建築折衷の異
国情緒溢れ
た建物でし
た。全面ガ
ラス張りの
窓からの景
色を眺めな
がら、アラ
ビア料理と
店内ブルワ
リーで醸造
された飯能
初のクラフ
トビールを



能仁寺休憩所にて

堪能しました。

今回の散策プランは、飯能市在住の本間健志(定11回)さんの提案によるものです。本間さんの用意してくれた飯能名物「四里餅(しりもち)」はあんな美味い大福でした。

(所沢市在住)

ゴルフ同好会

臥牛会会長を引き受けて

小田洋雄(15回)

昨年春の六〇回記念コンペを終えた区切りとして、鈴木亮会長からバトンを引き継ぐことになりました。臥牛会のコンペには五、六年前から気楽に参加しています



が、先輩たちの努力のお陰で三二年も継続し活動している事に驚いていました。この伝統ある村上高校同窓会関東支部のゴルフ同好会の運営を引き継ぐことになり気持ちを引き締めている次第です。

長年東京に住んでいながら仕事に追われていた事もあり、母校の同窓会開催などにはあまり関心も持たずにおりました。しかし六〇半ばを過ぎたあたりから少し気持ちに変化が生れ、大好きな故郷村上の集まりである村上市郷友会の「三面川の鮭を食べる会」や、同窓会のゴルフコンペにも時々参加するようになって来ました。また本同窓

会の役員である田所和子さんとは親戚関係であり、ゴルフの事務局担当佐藤勝先輩からも同窓会活動への参加と協力を強く要請されていきました。

そんなことから二月に開催された同窓会役員幹事会にも出席させていただきました。総会に向けての準備や同好会の活動についてなどの最終的な確認等の打合せとなりましたが、若い幹事の人達の活発な意見等には頼もしさを感じました。

同窓会そのものも若い後輩達に如何に参加して貰えるかが今後の課題ですが、臥牛会も同じです。若い人達への働きかけが大切であり今後同窓会総会の懇親会やHP・広報紙などを通して積極的に働き掛けを考えています。

我々長くゴルフをやっている者は道具(ゴルフクラブ)も意外と沢山持っている、使っていない道具などをこれからゴルフをやりたいという後輩たちへのフルセツト無償提供なども出来ることと考えております。又、女性軍の参加増も今後のテーマと

思っております。ほか協力体制をいろいろ考えて行きます



紫カントリークラブ

す。「同窓の絆」をゴルフという楽しいスポーツを通してより深める事ができれば幸いです。(世田谷区在住)

第六二回秋季ゴルフコンペ

日時：平成三〇年一月八日(木)

会場：紫カントリークラブ

優勝 稲葉 潔 (27回)

NE T七四

準優勝 藤山洋一 (16回)

NE T七五

第三位 高橋国栄 (20回)

NE T七六

第六三回春季ゴルフコンペ

日時：平成三一年四月一二日(金)

会場：紫カントリークラブ

優勝 本間 保 (17回)

NE T七五

準優勝 盛岡 茂 (19回)

NE T七四

第三位 伊藤マユ子 (20回)

NE T七五

※盛岡さんは初参加のため準優勝になります。

三一回生同期会

南 恵美子(31回)

昨年の三月に同期会を開きました。女性三名、男性六名の計九名の参加。私にとっては卒業以来三九年ぶりの再会でした。時の流れて面白いですね。高校時代、一度も同じクラスになったこともなく、話もしたことがない人と



左端 筆者

も話せました。当然話は盛り上がり、尽きません。卒業アルバムを見ながら一人ひとりについて語るような状態。みんな時々田舎に帰っているよ。うなのでいろいろ情報を持っています。こういう人たちが同窓会の学年幹事さんをやってくれたらなあ、と思いました。昨年は三一回生が同窓会の当番幹事ということで、事務局のほうから顔合わせを兼ねて同期会を開いたらどうかと話があり、副会長の田所さんが手配してくれました。名簿に載っている三一回生の関東在住者は五〇名です。『もっと居るんじゃないの』という話も出ました。

参加者九名は少ないですよ。そもそも同期会って当事者が企画するべきだし、私を含めて関心が少ないのかと思います。あと五年ぐらいしたらもっと集まってくれるのかしら・・・

同窓会の出席者も世代が若くなるにつれて減ってきています。三〇代は子育て、四〇、五〇代は働き盛り、五〇後半から六〇代にかけて定年前の追い込み、孫の面倒見に親の介護と忙しいでしょうが、ぜひ同窓会・同期会に参加して下さい。(新座市在住)



母校だより

いよいよ一〇〇周年

村上高等学校 校長 関矢和彦

同窓会関東支部

の皆様には、その後お変わりなくお元気で過ごされることと存じます。

校長として四年目

の春を迎えることになりました。通常、高校は三年で卒業ですが、私の場合、それ以上に村上高校で勤務できますことは、本当に嬉しい思いでいっぱいです。



さて、今原稿執筆中ですが、三月の卒業式〜高校入試〜終業式を無事終え、春休みに入って、残すは離任式のみとなりました。新年度からは、各学年四学級、全校で一二学級規模(定員四八〇名)の学校になります。少子高齢化は、避けて通れない問題ですが、本校においては、伝統校の名に恥じない質の高い教育を提供し、村上を活性化させ地域貢献できる、そんな人間を数多く輩出したいと考えています。そのため現在推進しているプロジェクトが、「村高イヨボヤプラン」です。

(写真はポスター)

平成三〇年度から三年間の計画で、新潟県教育委員会より「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり」



推進事業の指定を受け、本校は「大学進学を重視した学究型の高校」を目指しています。その基本戦略が「イヨボヤプラン」になります。

村高で育てたい力として①キャリア形成力 ②問を立てる力と問題解決力 ③人間力 ④確かな学力の四つを掲げ、高校三年間を通じて「村高ゼミミラクル〜三」を学んで、『村上の未来を共に創る!』探究学習を進めていきます。具体的には、一年次「村上地域を知る」、二年次「地域課題の設定と協働して課題解決にあたる」、三年次「課題解決に必要な学問分野を探究する」という考え方で様々な活動を行い、実際の進路実現へとつなげていきたいと考えています。

一方、グローバル化の進展も昨今の情勢です。高校二年次の修学旅行を国内から海外に変更し、台湾を二度訪れました。現地高校生との交流事業も充実し、今年十二月には、シンガポールへ出かけて、村上のいいところ魅力情報を発信し交流していきます。

来年二〇二〇年は、いよいよ本校創立一二〇周年です。新たな時代へ向け

て、よき伝統を守りながらも、新時代へ向けたチャレンジを続ける覚悟です。今後の村上高校の飛躍にどうぞ御期待ください。そして同窓の皆様には、今後も、共に輝かしい村高づくりに御協力いただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

星和会のご案内

佐野清廣 (3回)



星和会は、旧村中、村高(含併中)の卒業生を主体に満六〇才を超えた有志の集まりです。毎年十一月に文化講演、総会、午餐会(懇親会)を開催しております。現在会員は約四〇名。三〇年近い歴史があります。メイン・イベントは村高関係者による文化講演と午餐会(懇親会)です。

昨年は、「昭和映画史の一断面」と題して、齋藤次男氏(3回)が講師を務めました。齋藤氏は、東北大学を卒業後松竹へ入社し、一六年間プロデューサーとして『切腹』おはなはん』などを手がけましたが、前回は特に『切腹』を取上げ、プロジェクトで迫力ある画面を映写しながら解説されました。色々昭和の頃の撮影現場裏話も披露されました。大変面白く聴くことが出来ました。今年の星和会は十一月二四日に行います。なお、期日近くになりましたら、関東支部HPでご案内いたします。(鶴ヶ島市在住)

編集後記



機関誌「村高」も30号を迎えることができました。毎回のことながらいつもたくさんの方のご協力のおかげで発行できております。これからもより多くの方に喜んで読んでいただけるよう努力して参ります。何かお気づきの点やご意見のある方は、お気軽に事務局までご一報ください。(K)

■ 村高関東支部役員一覧 ■

平成30年度

役職	氏名	卒業回
顧問	佐藤 勝	14回
副会長	山本 宏平	17回
副会長	田所 和子	17回
副会長	山下 治郎	19回
副会長	山富 良成	19回
副会長	中村 修平	21回
副会長	美濃 忠三	22回
副会長	長谷川 康夫	10回
副会長	遠藤 美子	21回
副会長	遠藤 繁雄	23回
副会長	櫻井 光顕	23回
副会長	高橋 春夫	23回
副会長	木村 一昭	1回
副会長	川上 孝二	2回
副会長	小田 正二	3回
副会長	中野 素子	6回
副会長	乾 良雄	6回
副会長	荒木 廣實	6回
副会長	齋藤 菊栄	7回
副会長	中野 菊栄	8回
副会長	小池 悟朗	8回
副会長	関根 洋子	9回
副会長	鈴木 亮	9回
副会長	本間 勝治	9回
副会長	小野 安雄	10回
副会長	小林 健志	10回
副会長	本間 健志	11回
副会長	横山 昇	12回
副会長	板垣 成也	13回
副会長	伊藤 衛	13回
副会長	菅井 眞人	13回
副会長	菅井 眞人	13回
副会長	松澤 正茂	15回
副会長	尾崎 稔	15回
副会長	川村 衛	16回
副会長	佐藤 三男	16回
副会長	本間 保	17回
副会長	宮 絢子	17回
副会長	緒方 光彦	18回
副会長	中村 和憲	18回
副会長	濱中 壽幸	18回
副会長	高橋 繁夫	18回
副会長	菅井 初雄	19回
副会長	長坂 三重子	19回
副会長	秋山 芳行	19回
副会長	志田 裕	20回
副会長	齋藤 勇一	21回
副会長	瀬下 江久	21回
副会長	山崎 弥生	21回
副会長	鈴木 和行	22回
副会長	八藤 久子	22回
副会長	室井 久子	22回
副会長	八藤 久子	22回
副会長	佐藤 裕春	22回
副会長	山本 利春	24回
副会長	高橋 初雄	24回
副会長	佐藤 隆吉	26回
副会長	永井 忠彦	26回
副会長	石栗 大海	28回
副会長	水島 寿子	29回
副会長	大塚 和代	29回
副会長	山本 敦子	29回
副会長	中村 敦子	30回
副会長	小林 進平	30回
副会長	山本 章	30回
副会長	相馬 三	30回
副会長	伊藤 安夫	30回
副会長	丹田 美子	30回
副会長	南 尚夫	31回
副会長	工藤 昌	31回
副会長	坂井 亮	31回
副会長	近 敦子	31回
副会長	森山 敦子	32回
副会長	前田 格	36回

本年度は役員が改選されます。

30年度 維持会費拠出者一覧

16	佐藤 三男	20	中村加和子	24	渡邊 聡
16	藤山 洋一	20	樋口 孝子	24	板垣 保明
17	倉崎テル子	20	尾上 啓子	24	遠山 満
17	伊与部 健	20	齋藤 満男	25	富樫三子夫
17	金谷 法子	20	新沼たず子	25	中田勢津子
17	山本 宏平	20	本間 廣	25	森井真由美
17	太田 直也	20	佐藤 方直	25	山本 純子
17	鈴木 沙代	20	志田 裕	25	須貝千佳子
17	本間 保	20	菅原 悟	25	近藤 喜則
17	吉本 淳子	20	鈴木 陽二	26	佐藤 隆
17	石川 睦	20	高崎 慶一	26	八藤後ゆう子
17	当摩 健	20	羽深 大三	26	松澤 豊
17	工藤 敏光	21	伊藤マユ子	27	板垣 恒彦
17	斎藤千恵子	21	久保喜代子	27	石栗 忠彦
17	富樫 芳次	21	飛田 芳子	27	山村 重雄
17	宮本久美子	21	松山由喜男	27	梅原 章子
17	板垣ヨシ子	21	飯島 剛	27	臼井 潔人
17	楢取 英子	21	清水 正幸	27	稲葉 潔
17	小池正一郎	21	鈴木 正信	28	櫻井 繁子
17	佐藤 笑子	21	中村 金男	29	大塚 寿子
17	品沢美代子	21	瀬下 江二	29	中村 英之
17	田所 和子	21	本保 悦也	29	稲葉 充
17	若徳 勇	21	吉田 恵美子	29	木ノ瀬 亮平
17	稻垣 常夫	21	薄井 徹	29	川崎 芳邦
17	川島 也子	21	難波 光子	30	小林 敦子
17	宮 絢子	21	萩原美津枝	30	岡部 尚子
17	服部 芳朗	21	山際 敏和	30	安東 朋子
17	三科 禮三	21	山崎 久男	30	相馬 章
17	南 公隆	21	遠藤きみ子	30	本間 尋行
18	緒方 光彦	21	恩田たみ子	30	金子 元子
18	金田 昭子	21	川上 幸男	30	廣本さとみ
18	平山 謙	21	高橋 美徳	30	菅 憲悦
18	斎藤 周平	21	寺井 克為	30	伊藤 ヨシ
18	中村 和憲	21	中村 修平	30	成田 誠
18	濱中 壽幸	22	小池 博幸	30	小田 徹
18	高橋 繁夫	22	鈴木 鉄雄	30	佐藤 達生
18	三国 哲朗	22	鈴木 弥生	30	清野 篤
19	河口富美子	22	美濃 忠三	30	丹田 安夫
19	坂中 良子	22	松原 恵子	30	中村 好
19	菅井 初雄	22	室原やい子	30	斎藤 司
19	長坂三子	22	宮井 初雄	31	南 恵美子
19	村山みち子	22	八藤後和行	31	横山 素子
19	磯部 衛	22	山本 敦	31	渡部 祐子
19	木村 香	22	北岡 亮子	31	佐藤 順子
19	名取久仁子	22	五十嵐敏文	31	坂井 昌夫
19	安富 成良	22	佐藤 裕治	31	工藤 尚廣
19	吉川 梅子	23	鈴木 和美	31	近 亮
19	井上ミヤコ	23	細谷 洋子	32	森山 敦子
19	鈴木 実	23	百瀬ひろみ	32	山田 高子
19	美濃部千恵子	23	木村 春夫	32	角田 和浩
19	青山 早苗	23	八藤後忠夫	32	藤田 円
19	秋山 芳行	23	井上えみ子	33	廣田 昭美
19	尾木由起子	23	小堀美喜子	35	唐戸 悦子
19	佐藤 昭二	23	櫻井 繁雄	36	太田 俊之
19	菅井小夜子	23	富樫 博志	36	中島 博
19	中村富美子	23	村田 裕子	36	佐藤利枝子
19	茂原孝太郎	23	菅原 清	37	花房 泰浩
19	山下 治郎	23	高橋 光顕	39	山本 一郎
19	山本 文忠	23	小森裕貴子	41	黄地 貴子
19	奥村 良作	23	加藤 明		
19	鳥屋 実	23	齋藤 直樹		
19	成岡 則行	23	中村 則行		
20	菅原 孝	24	広沢なお子		
20	加藤 正己	24	七海 陽子		
20	木村 幸夫	24	高橋 重実		
20	平山 恵美	24	高橋 初雄		
20	佐藤 康三	24	土屋 康子		
20	佐藤久美子	24	村山 博子		
20	高橋 国栄	24	吉澤まり子		
20	渡辺 泰次	24	山本 青子		
20	菅原ヒロ子	24	阿部 正人		
20	菅野 竹子	24	佐藤 宣保		
20	肥本 久子	24	山本千代子		

ご協力者数は 351名

維持会費納入のご協力ありがとうございました





清酒

鶴張

しめはりつる

創業200周年

宮尾酒造株式会社
新潟県村上市上片町5-18

株式会社
永徳

0254(53)6299
新潟県村上市昭和町4番5号
0254(52)6141

信州高山産“りんご”と“ぶどう”販売

南志賀高原のすそ野に広がる標高 600 m
の果樹園「味の良さ」で評判！ 🍏 🍇

りんご: つがる・シナノスイート・シナノゴールド・秋映サンふじ、各種 10kg 家庭用 3,800円 (送料込み)

ぶどう: シャインマスカット・ナガノパープル・クインニーナ 3種詰合せ 3kg 4,500円 (送料800円)

ご注文・問合せはFAXでお願いします
宮川農園(村高全15回生)
携帯 090-1554-2707
FAX 026-246-9666

ふるさとだより



喜び溢れる躍動する 村上

村上市 市長 高橋 邦芳 (30回)



「平成」から「令和」に元号が改まり、4月30日には天皇陛下が御退位され、5月1日に皇太子殿下が御即位されました。新皇后雅子様ゆかりの地である本市としましては、御即位当日にちょうちん行列の実行や記帳所の開設、懸垂幕の掲出、市内全戸と商店等へ慶祝ステッカーを配布するなど、市民の皆様とともに心より御祝いを申し上げます。また、村上まつり保存会様では、平成5年の雅子様御成婚、平成13年の愛子内親王殿下御誕生の時と同様に、おしゃぎりの巡行を開催されました。昨年3月も、4月の市制施行10周年と合わせた祝賀行事で各町内のおしゃぎりが一堂に集まり、市民挙げてのお祝いとなりました。このたびの天皇陛下御即位でも、大勢の皆様が祝意を表されることと思っております。



令和の時代の幕開けとともに、5月10日から12日の間、完成したばかりの「村上市スケートパーク」において「第3回日本スケートボード選手権大会」が開催され、この大会は、来年に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックの出場

選考を兼ねた大会であり、スケートボードの聖地創造を目指す我が市にとって、願ってもない「こけら落とし」となります。また、本市出身の銀メダリスト、平野歩夢選手も3月の大会に出場して3位に入る好成績を出しており、冬季と夏季のオリンピックでのメダル獲得に向け、期待していききたいと思います。

去年は、他の自治体との積極的な連携も進め、4月には茨城県大洗町と友好都市協定を結び、太平洋側と日本海側のまちが港を通して交流・連携し、発展していくことを期待しています。そして、11月には新潟市との包括連携協定を締結。文化・芸能・食などを通じた民間団体による市民活動を支援し、新潟の魅力発信を協力して取り組んでいきます。早速、3月の「町屋の人形さまめぐり」では、新潟市内で雛人形を展示し、PRさせていただいています。また、今年、JR東日本による「新潟県・庄内エリア デスティネーションキャンペーン」が展開され、全国からの注目がこの新潟・庄内エリアに向けられます。新潟市との連携が本市との点と点だけでなく、日本海側全体の活性化につながる



よう取り組みを進めていきます。

本市の誇る様々な特産品により磨きをかけ、「鮭」「岩船米」「村上牛」をはじめとし、「越後本ズワイ」や「白皇鮭」など積極的なPRと生産拡大に努めていきます。

